



水稻高温耐性品種「愛知123号」を開発

—暑い夏でも品質が安定します—

開発の背景・ニーズ

近年、本県のコシヒカリでは、穂が出てから実るまでの時期が高温になることが多いため、白未熟粒と呼ばれる白く濁った米粒が多く発生し、1等米比率が低下することが大きな問題となっています。

そこで、高温でも白未熟粒の発生が少なく品質の良い米ができる品種の開発に取り組みました。

成果の内容

「愛知123号」は、「コシヒカリ」と高温耐性に優れる「TS-3」交配した後、「コシヒカリ」を3回戻し交配し、その後代から高温条件下での米の品質などによって選抜育成した極早生品種です。

開発した品種の特徴は、

- (1) 高温耐性を有しており白未熟粒の発生割合が少なくなります。特に、猛暑の年にその特性を発揮し、品質が明らかに良くなります。
- (2) 食味も「コシヒカリ」と同等の良食味です。
- (3) 「コシヒカリ」と比較し、粒の大きさは同等で、収量は同等かそれ以上となります。

平成26年3月に種苗法に基づく品種登録出願を行いました。

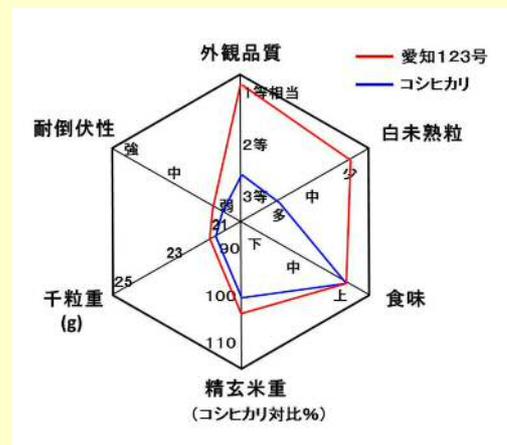


愛知123号の草姿



玄米比較

上段「愛知123号」下段「コシヒカリ」



特性比較

愛知県農業への貢献

本品種を導入することにより、猛暑の年でも品質が良いお米を安定して生産することができるため、1等米比率を高くし、稲作農業者の経営を安定化させることができます。あわせて県産米の評価向上に貢献できます。